

(公財)神戸大学六甲台後援会だより

(84)

昨年の秋、日本人2名がノーベル賞を受賞したという明るいニュースが報じられました。ノーベル生理学・医学賞の坂口志文氏、そして化学賞の北川進氏です。お二人の研究内容や社会的意義についてはすでに多くのメディアで紹介されているため繰り返しません、いずれも長年にわたる地道な探求の積み重ねが結実した成果であり、華やかな受賞の背景には、挑戦と忍耐の日々があつたことが印象的でした。

研究者としての卓越した努力はもちろんのこと、ここでは少し視点を変え、研究室運営や組織としての姿という側面から見てみたいと思います。受賞直後の話題が落ち着いたころ、日本経済新聞に坂口氏の研究室を組織の経済学の観点から分析した記事が掲載されました(『弱小チーム』なぜノーベル賞? 経済学で解く坂口ラボの秘訣) 2025年11月16日朝刊)。この記事では、坂口ラボに見られる特徴として、「ビジョナリーな姿勢」「リーディング・バイ・イグザンプル」「イエスマンの抑制」「リーダーシップの分業」といった、研究組織として極めて重要なポイントが整理されていました。

さらに、記事では研究テーマの選択が「ブルーオーシャン戦略」にも通じると指摘されています。競争の激しい領域ではなく、まだほとんど注目されていない未知の領域に踏み込んだという意味では、一理ある見方でしょう。しかし、ここには注意も必要です。成功した研究に対して後から意義を強調すること

は容易ですが、実際には、当時は成功の見込みが不確かで他の研究者がなかなか踏み出さなかった領域だったとも言えます。いわば「ブルーオーシャン」に見えるのは結果の側面であつてその陰には、多くの試行錯誤と失敗が存在したことは容易に想像可能です。大学という研究機関は、そのような成功と失敗の繰り返しを前提に、多様な研究テーマの共存を許容する必要があります。短期間で成果が出る研究ばかりが評価されるような環境では、学問の発展は望めません。

個々の研究者にとって研究テーマの選択は、人生を左右するほど重大な判断です。テーマ選択には個性が反映され、また一度選んだ以上は困難な時期にも粘り強く取り組む覚悟が求められます。社会の動向や時代のニーズを踏まえることは重要ですが、流行しているかどうかだけを基準にしてしまえば、着実な成果が出るまでに長い年月を要する研究は避けられがちになってしまいます。研究とは本来、遠回りや停滞も必然的に伴う営みであり、その背後には静かな忍耐があることをご理解いただければ幸いです。

こうした時間の長さは、おそらく外から大学を見たとき、不思議に思われる点かもしれません。大学の中では、長さの異なる時間が同時に流れています。

短い時間の代表が授業です。大学の授業は一時間半で終わり、次の時間には同じ教室で別の授業が行われています。また授業は毎週異なるテーマで講義が行われます。しかしその一方で、単位は半期ごとに認定され、学部生の卒業の可否は4年間の学習の積み重ねによって判定されます。卒業のための要件は、入

学年度の『学生便覧』に記されたルールが卒業まで適用されます。要件は年度ごとに変わることはあっても、卒業要件が在学中に大幅に変更されることはありません。標準年限を超えて学ぶ学生の場合、さらに長い期間、過去に定められたルールのもとで学び続けることになるわけです。

しかし、実際には六甲台でも新しい教育プログラムや学修支援の取り組みが着実に進んでいます。その変化は全てが大きなニュースになるわけではありませんが、大学内部では小さな変化が続いています。『凌霜』でも随時こうした取り組みをご紹介します。介していますが、もし十分に伝わっていないと感じられるのであれば、大学の発信力の課題に加え、大学という組織の変化が一般には見えづらいほど長いスパンで進むことも理由の一つかもしれません。

(経営学研究科教授 清水泰洋)

前号でご報告させていただいた以降、2月10日現在でのご報告となりますが、多くの皆様からご寄附をいただいております。誠にありがとうございます。

15 堂)、有田喜一郎様(平 22 堂 M B A) 各 1 万円、成住俊二様(昭 29 法)、匿名様(昭 54 法)、村田 到様(昭 37 経)、吉本隆太郎様(昭 40 経)、片桐 陽様(昭 40 経)、松井 章様(昭 45 堂)、直嶋正行様(昭 46 堂) 各 2 万円、匿名様(昭 48 経)、中埜晶夫様(昭 51 経)、増井周司様(昭 54 経)、武貞文隆様(昭 51 堂) 各 3 万円、安藤幹雄様(昭 45 法)、鶴 浩一様(昭 32 経)、上月秀夫様(昭 32 経)、匿名様(昭 45 経)、川村公二様(平 5 経)、黒河内 義様(昭 50 堂) 各 5 万円、岡村二郎様(昭 34 法)、中村秀雄様(昭 47 法)、水島 昇様(昭 51 法)、神田章太郎様(平 9 法)、根津 隆様(昭 30 経)、川谷 仁様(昭 32 経)、稲垣 滋様(昭 45 経)、坂根利彦様(昭 40 堂)、原田壽夫様(昭 40 堂)、新垣恒則様(昭 40 堂)、佐藤卓己様(昭 51 堂)、松坂英孝様(昭 55 堂) 各 10 万円、匿名様(昭 37 堂) 20 万円、末廣雅彦様(昭 36 経) 30 万円、ご寄附をいただきました。

お陰様で、本号で新たに報告できる寄附金額は 276 万 2 千円になり、令和 7 年 4 月以降のご寄附は 742 万 1 千円(法人等からの寄附を除く)となりました。厚くお礼申し上げます。毎回お願いしています寄附金の送り先は左記のとおりです。

また、本財団ホームページからもご寄附(クレジットカードによるご寄附、インターネットバンキングによるご寄附等)いただけますのでご利用ください。よろしくお願い申し上げます。

◎銀行送金の場合(銀行から後援会に氏名(片仮名)と金額が報告されますので、メール・電話・FAX で後援会事務局宛に、送金をされたこと、卒(修了)年、学部(研究科)、住所を一一報ください)

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金 4069496

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合(通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください)

口座番号 00980-9-116772

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎本財団ホームページからのご寄附

ホームページ「ご寄附」の WEB 申込みフォームからご寄附いただけます。 <https://rokkodafund.com/>

*本財団ホームページからご寄附いただく場合、毎月 15 締めで月末に本財団の口座へ入金されます。領収書等の発行は口座への入金日以降となりますのでご了承願います。

T 657-0068

神戸市灘区篠原北町 4-11-5

公益財団法人神戸大学六甲台後援会事務局

電話・FAX (078) 861-3013

E-mail: k-koenkai@rokkodafund.com

